

富士養鱒場だより

第237号

平成30年5月号

静岡県水産技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

FAX:0544-52-0312 E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji>

平成 29 年のサケ科魚類・海面養殖の生産実態 及び魚病被害のアンケート調査結果

静岡県内のサケ科魚類及び海産魚の養殖業者の方々に御協力いただいた平成 29 年の生産実態及び魚病被害のアンケート調査結果を取りまとめましたので、概要を報告します。

方 法

県内でサケ科魚類及び海産魚の養殖業を営む経営体を対象にアンケート票を配付し、魚種ごとの生産量と生産額、魚種別及び疾病別の魚病被害量と被害額を調査しました。本調査の対象期間は平成 29 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間です。

結 果

1 サケ科魚類（表 1）

(1) 経営体数

延べ経営体数は 52 軒、実経営体数は 28 軒でした。前年比では、ニジマス・イワナで各 1 軒増加し、アマゴで 4 軒減少しました。

(2) 生産量

生産量は 1,099 トンで、前年比では 78%となり、303 トン減少しました。前年に比べ、ギンザケ・アマゴで増加し、ニジマス・イワナで減少しました。特に、ニジマスは 1,000 トンを下

回り、前年比では 80%となり、228 トンも減少しました。

(3) 魚病被害状況

魚病被害量は 113.0 トンで、前年比では 210%となり、59.2 トン増加しました。内訳は、ニジマスで最も多く 99.9 トンとなり、生産量の 10.6%を占めたほか、アマゴでは 7.4 トンとなり、同 15.5%を占めました。

主な発生疾病は、ニジマスでは IHN や冷水病、レンサ球菌症で、アマゴではせっそう病やレンサ球菌症でした。

2 海産魚（表 2）

(1) 経営体数

延べ経営体数は 35 軒、実経営体数は 18 軒でした。前年比では、マアジで 1 軒増加しました。

(2) 生産量

生産量は 1,897 トンで、前年比では 85%となり、337 トン減少しました。魚種別に見ると、マアジでは前年比 106%と増加したものの、マダイ 82%、ブリ 78%、シマアジ 79%と、大きく減少しました。

表 1 サケ科魚類のアンケート調査結果

| 魚種 | 経営体数 (軒) | 生産量 (トン) | 魚病 | | |
|------|-------------|-------------|-------------|----------------------|----------------------|
| | | | 被害量 (トン) | 生産量に 対する割合 (%) | 主な疾病 |
| ニジマス | 18 | 943 | 99.9 | 10.6 | IHN、冷水病、レンサ球菌症、ミズカビ病 |
| ギンザケ | 3 | 46 | 5.0 | 11.0 | EIBS |
| アマゴ | 17 | 48 | 7.4 | 15.5 | せっそう病、レンサ球菌症 |
| イワナ | 9 | 43 | 0.7 | 1.6 | せっそう病 |
| その他 | 5 | 20 | 0.0 | 0.0 | |
| 合計 | 52 (28)※ | 1,099 | 113.0 | 10.5 | |

※経営体数合計のカッコは実経営体数

(3) 魚病被害状況

魚病被害量は 62.9 トンで、前年比では 122% となり、11.3 トン増加しました。内訳は、マアジが最も多く 29.6 トンとなり、生産量の 7.3% を占めたほか、ブリでは 20.0 トンとなり同 8.0%、シマアジでは 10.0 トンとなり同 22.2% を、それぞれ占めました。

主な発生疾病は、マアジではビブリオ病やレンサ球菌症、ブリではノカルジア症やレンサ球

菌症、シマアジではレンサ球菌症でした。特に、ブリとシマアジで見られたレンサ球菌症はラクトコッカス・ガルビエの血清型Ⅱ型によるものでした。本症は静岡県では初確認となり、発生が長期化したため大きな被害を生じました。

なお、本アンケート結果の詳細は、静岡県水産技術研究所「平成 29 年度事業報告」に掲載します。

(木南竜平)

表 2 海産魚のアンケート調査結果

| 魚種 | 経営体数 (軒) | 生産量 (トン) | 魚病 | | |
|-------|-------------|-------------|-------------|----------------------|------------------|
| | | | 被害量 (トン) | 生産量に 対する割合 (%) | 主な疾病 |
| マアジ | 10 | 403 | 29.6 | 7.3 | ビブリオ病、レンサ球菌症 |
| マダイ | 12 | 1,155 | 3.2 | 0.3 | イリドウィルス病、エドワジエラ症 |
| ブリ | 3 | 249 | 20.0 | 8.0 | レンサ球菌症、ノカルジア症 |
| シマアジ | 3 | 45 | 10.0 | 22.2 | レンサ球菌症 |
| その他 | 2 | 21 | 0.0 | 0.0 | |
| 陸上ヒラメ | 3 | 23 | 0.1 | 0.1 | 滑走細菌症 |
| 陸上その他 | 2 | 1 | 0.0 | 0.0 | |
| 合計 | 35 (18)※ | 1,897 | 62.9 | 3.3 | |

※経営体数合計のカッコは実経営体数

トピックス

第 68 回富士宮ます釣り大会とにじます放流会が開催されました

3 月 4 日に「富士宮ます釣り大会」と「にじます放流会」が開催されました。

富士宮ます釣り大会は、富士宮市非出資漁業協同組合が主催する富士宮市に春の訪れを告げる釣り大会で、市内の中心部を流れる冷たくきれいな水の流れる神田川や潤井川でニジマスなどの釣果が競われました。

また、にじます放流会では事前に市民有志に配布されたニジマスの発眼卵をそれぞれの自宅で 1 ヶ月程飼育し、ふ化した稚魚が神田川に放流されました。同日、その放流者は高い飼育技術と資源増殖意識を讃え「育て鱒ター」として認定されました。

本イベントをとおして富士宮市の魚である

ニジマスへの関心・愛着を高めると同時に、富士山の恵みを受けたすばらしい水環境のある郷土の大切さを実感できたものと思います。

(平井一行)



人事異動

- | | | | |
|------|------------|---|--------------------|
| (転出) | 上席研究員 鈴木基生 | → | 水産技術研究所浜名湖分場 上席研究員 |
| | 主 査 佐藤孝幸 | → | 静岡県信用漁業協同組合連合会 調査役 |
| (転入) | 上席研究員 松山 創 | ← | 水産資源課 主 査 |
| | 上席研究員 中村永介 | ← | 水産技術研究所深層水科 上席研究員 |

転入者自己紹介

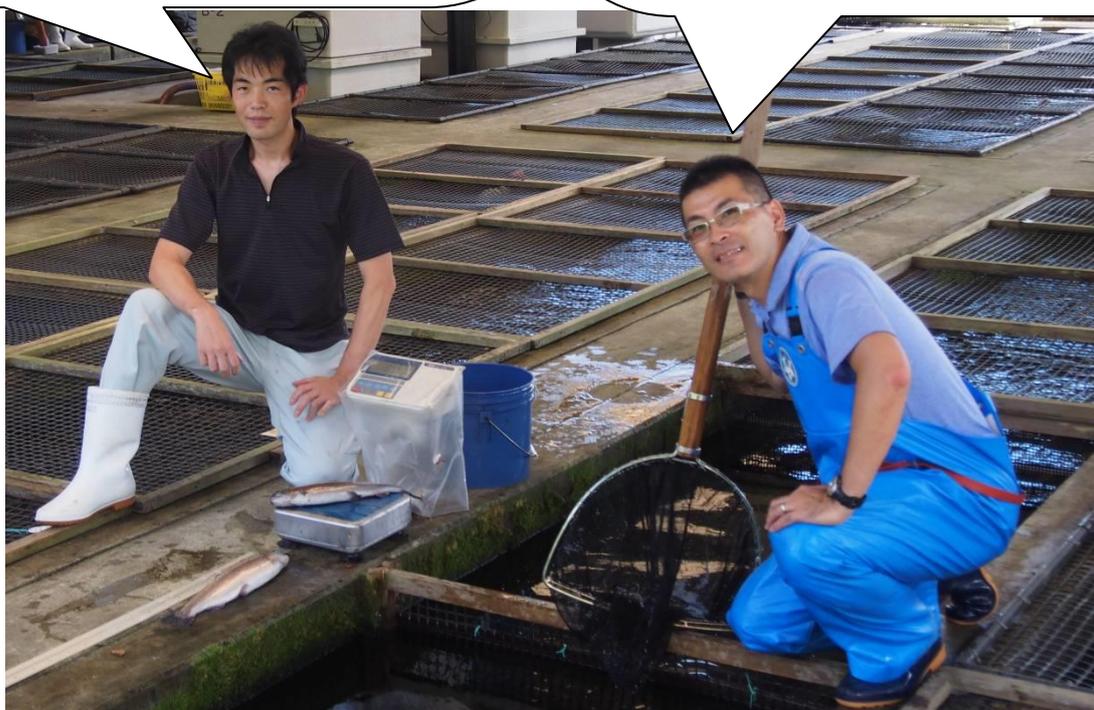
4月より、水産技術研究所（本所・深層水科）より赴任しました中村永介（ナカムラエイスケ）です。富士養鱒場は新採以来10年ぶりで2度目になりますが、以前とは養鱒業界の状況も大きく変わっており、皆様には改めて色々ご指導いただきたく存じます。

今回、ニジマス育種および魚病研究を担当することになりましたが、それ以外でもお役に立てればと思います。前職では駿河湾深層水の活用等に携わっておりましたので、興味がありましたら気軽にご相談ください。至らぬ点も多いですが、頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

このたびの人事異動で、3年ぶりに富士養鱒場へ配属されました松山創（マツヤマハジメ）です。前回在任時は、普及指導員として主に魚病対策を担当していましたが、今回は研究員として中村と共に、業務紹介にあります新成長戦略研究を担当いたします。

これまで、海面養殖やアユ・ウナギ養殖に関わる業務や、県庁でも魚類防疫対策や養殖振興に携わってきました。

微力ではありますが、養殖業界や地域の振興のため、関係者の皆様の御協力を頂きながら努力していきたいと思ひます。至らぬ点も多々あるかと思ひますが、よろしく御指導お願ひします。



業務紹介

昨年度から開始しました低魚粉飼料でも成長が良く、外観も良いベジタリアンニジマスを遺伝育種により作出する研究（新成長戦略研究）と養鱒業に甚大な被害を及ぼすIHNの根絶に向けた研究を平成31年度まで継続して実施して参ります。

それらの結果、平成32年度には県内の養鱒業者に対しましてベジタリアンニジマスの種苗の試験配布やIHNに強い系統の作出が行えるよう業務を進めたいと考えております。

また、「紅富士」の供給体制の強化や養鱒業における初期減耗対策も継続して取組むと同時に、県内外の有用な研究成果や参考となる活動等についても適切に情報発信して参ります。

なお、河川の遊漁者の満足度を高め、賑わいを取り戻すことなどが盛り込まれた「アユの総合的な放流指針」の普及と実践、さらに魚類防疫対策などをおして河川漁協や養殖業界の経営向上に寄与したいと考えております。

（平井一行）

| 職 | 氏名 | 主な担当業務 |
|---------------|------|---|
| 場長 | 平井一行 | 富士養鱒場業務の総括 |
| 主任 | 古郡良輔 | 予算・庶務、観覧業務、庁舎等の保守管理 |
| 上席研究員 | 松山 創 | 試験研究の企画調整、新成長戦略研究統括 冷水性淡水魚類養殖研究 |
| 上席研究員 | 中村永介 | 新成長戦略研究（遺伝育種によるベジタリアンニジマスの作出） IHNの根絶に向けた研究 |
| 主査 （普及指導員） | 鈴木邦弘 | 新成長戦略研究（「紅富士」供給体制の強化） 普及指導（6次産業化、内水面漁業、広報） |
| 主任 （普及指導員） | 木南竜平 | 普及指導（養鱒業における初期減耗対策、内水面漁業） 魚類防疫対策（内水面養殖、海面養殖、内水面漁業） |
| 非常勤職員 | 植松久男 | 試験研究補助、飼育管理、場内管理 |
| 非常勤職員 | 植松新造 | 試験研究補助、飼育管理、場内管理 |

富士養鱒場の降水量と湧水量

| 月 | 降水量(降水日数) : mm (日) | | 湧水量 : 万 t /日 | |
|---|-----------------------|----------|-----------------|-------|
| | 今年 | 過去平均* | 今年 | 過去平均* |
| 2 | 21 (7) | 103 (8) | 2.18 | 3.23 |
| 3 | 360 (11) | 205 (9) | 4.20 | 3.52 |
| 4 | 341 (11) | 239 (10) | 4.15 | 4.56 |

* 前年以前の20年間平均値

日誌

| 2月 | 3月 | 4月 |
|-----------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 1日 一般研究評価会(焼津) | 2日 第2回遺伝子実験 安全委員会(場内) | 4-5日 富士川水系アユ標識 放流作業(裾野、市内) |
| 2日 養鱒漁協認証内部検査 | 8日 チャレンジ研究 成果報告会(県庁) | 10日 富士川水系アユ調査(市内) |
| 5日 ペルー研修生来場 | 9日 紅富士生産体制強化会議 検討会(市内) | 11日 普及月例会(焼津) |
| 6日 下田土木との川づくり 意見交換会(下田) | 12日 養鱒漁協職員月例会 | 12日 富士川水系アユ調査(市内) |
| 7日 交通安全講習会(場内) | 13日 養鱒漁協経営改善計画 進捗管理委員会(場内) | 17日 養鱒漁協職員月例会 |
| 8日 ニジマス新成長戦略研究 中間評価会(県庁) | 14日 魚病対策委員会(県庁) | 19日 危機管理連絡調整会議 (沼津) |
| 13日 養鱒漁協6次産業化相談会 | 15日 養鱒漁協組合員資格審査会 | 26日 内水面漁連監視員役職員 研修会(沼津) |
| 14日 ウナギ新成長研究 追跡報告会(県庁) | 15日 富士川アユ調査事業 第2回検討会(市内) | 27日 水産事業概要説明会(焼津) |
| 14日 静岡市河川課との 意見交換会(静岡) | 16日 普及課題設定協議会(焼津) | |
| 15日 普及成果報告会(焼津) | 20日 富士宮市カワウ対策会議 (市内) | |
| 18日 福井県漁協女性部 視察受入(市内) | | |
| 19日 全国養鱒技術協議会 運営委員会(東京) | | |
| 20日 養鱒漁協職員月例会 | | |
| 23日 第254回技連(浜松) | | |
| <視察見学対応> | <視察見学対応> | |
| 1日 第二中1年(1名) | 14日 浜松消費団体視察(35名) | |

